



事業計画書

1. 新事業の実施目的
2. 新事業の実施内容
3. 新事業の実施手順
4. 参考～当社の既存事業～

1. 新事業の実施目的

現場管理コストの増大

給排水工事、擁壁工事、舗装工事などの工事は、元請の建設業者がその工事規模に応じて我々専門工事業者に発注する。その際、工事の進捗確認・安全確保・環境保全などの目的で、工事現場ごとに管理者の常駐が求められる。

しかしながら、現場管理者を現場に常駐させる事は、人的、コスト的に大きな負担となっている。だからといって、これを怠ると、元請業者からの信頼を失い、リピート受注の障害にもなるというジレンマがある。このような事情から、管理の質を落とさずに、よりコストを抑える現場管理手法の確立が必要となっている。

元請会社も直接現場を把握したい

昨今の工事小型分散化・短納期の流れから、管理不行き届きが発生しやすい状況であることもあり、元請から、現場の管理状況を直接把握したいという要望が多い。そうした信頼性向上の要望にこたえるために、元請会社からも直接現場の状況を確認できる仕組みが必要とされている。

高品質・低コストの新管理法が必要

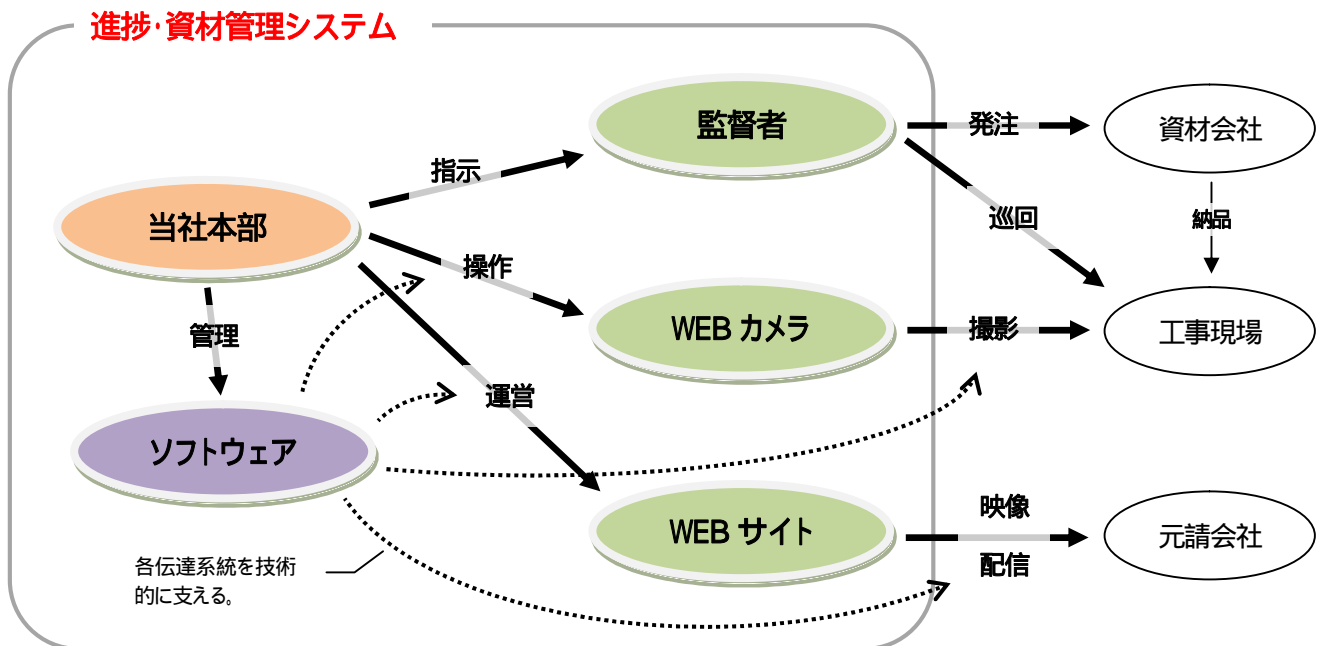
現場管理コストの増大で、当社や同業者の多くは1人の現場監督者に複数の現場を掛け持ちさせるということをやってみたが、目を離す時間が増えてしまい管理不行き届きが起こりやすく、現場監督の常駐を再開している。そのため、現場管理コストを抑えるだけでなく、かつ現場管理から目を離さずに現場管理の品質を落とさない新管理法が求められている。

工事の小型分散、短納期化により現場管理コストが増大しているが、一方、元請会社はより信頼できる現場管理を求めている。そこで当社は高品質・低コストを実現する本計画の新管理法を実行する決意をした。

計画概要

本計画で柱となるのは「工事現場における進捗・資材管理システムの構築と事業化」の実施である。

進捗・資材管理システムの全体図



システムの脳 当社本部

進捗・資材管理システムの中核は当社本部である。当社本部ではWEBカメラが撮影した工事現場の様子から工事の進捗度や資材の残量をチェックする。その状況に応じて監督者に対応するよう指示を出す。さらに、元請会社に映像が配信されるようWEBサイトを運営するとともに、各伝達機能の根幹となるソフトウェアの管理を行い、常にシステムの適切な運用を図る。

システムの手足 監督者

監督者は当社本部からの指示を受け、実際に工事現場の巡回や資材会社への発注を行う。

システム目 WEBカメラ

WEBカメラは当社からの遠隔操作により、工事現場の撮影したい箇所を撮影することができる。

システムの口 WEBサイト

WEBサイトは元請会社やエンドユーザーに対して映像を配信する手段である。

システムの神経 ソフトウェア

ソフトウェアはWEBカメラ、WEBサイト周辺の伝達システムを技術的に支えるものである。ソフトウェアで適切に処理された情報はインターネット回線を通じて伝達される。